

上京中学校 2年 道徳だより 6月発行

もっとすてきな自分に出会うために ——道徳で、心をアップデートしていこう

「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として位置づけられるようになり、3年目になります。上京中学校では、学級担任が行う担任道徳と、学年の教員が各クラスを順に回って行う持ち回り道徳を組み合わせ、下記の22の内容項目について、**自分ならどうするのかを問い、自分自身のこととして考え、議論していく道徳**を目指して取り組んでいます。

「1年間で学ぶこと（22の内容項目）」

Aの視点…自分自身に関すること

（自主,自立,自由と責任／節度,節制／向上心,個性の伸長
／希望と勇気,克己と強い意志／真理の探究,創造）

Bの視点…他の人との関わり

（思いやり,感謝／礼儀／友情,信頼／相互理解,寛容）

Cの視点…集団や社会との関わり

（遵法精神,公徳心／公正,公平,社会正義／社会参加,公共の精神／勤労
／家族愛,家庭生活の充実／よりよい学校生活,集団生活の充実
／郷土の伝統と文化の尊重,郷土を愛する態度
／わが国の伝統と文化の尊重,国を愛する態度／国際理解,国際貢献）

Dの視点…生命や自然、崇高なものとの関わり

（生命の尊さ／自然愛護／感動,畏敬の念／よりよく生きる喜び）

テストの解答は『正解』と『不正解』に分かれます。道徳にも『正解』はありますが、道徳の正解は1つではありません。人の数だけの正解があり、人の数だけの生き方があります。子どもたちが本音で語り合い、心を使って一生懸命考えた足跡をワークシートに残しながら、「今よりもっとすてきな自分に出会うために」を目標に授業を進めています。

この道徳通信では、道徳の授業で子どもたちがどんなことに気づき、考えたのか、子ども達の言葉を定期的に紹介していきます。道徳だよりを通じてご家庭でも意見交換していただき、子どもたちの学びがさらに深まる機会になればと思います。

学校、家庭、地域…子ども達を囲む周りの大人たちが手を取りあい、子どもたちの豊かな心を一緒に育てていきたいです。

先生方が各クラスをまわる交流道徳を実施しました。

学年の先生方が教材を通じて思いを伝える道徳の、1周目が先日終わりました。いつもは担任の先生が担当する道徳。けれど、人が違えば人生も、考えも違う。先生方が投げかけた問いにみなさんは、どう感じ、どう考えたでしょうか。（※二学期も実施予定です。）

教科書に出てくる登場人物の置かれた状況や、直面している課題は、みなさんが今知っている世界の範囲の「ごくわずか」です。より自分のこととしてとらえた言葉を、これからも「こころのあゆみ」にたくさん記せるようにしましょう。

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| ① 佐藤先生：C(16)「祭りの夜」 | ② 濱崎先生：C(14)「ごめんね、おばあちゃん」 |
| ③ 後藤先生：C(17)「書道パフォーマンスの挑戦」 | ④ 木元先生：A(1)「あの子のランドセル」 |
| ⑤ 大塚先生：A(3)「私は14歳」 | ⑥ 野崎先生：B(6)「愛」 |

<子どもたちのこころのあゆみ>

① 自分の地域の文化を守るために、祭りだったらその祭りを見に行ったり、京野菜を食べたりしてなくならないようにしたいです。

②今回学習したことは、自分の生活で活かしていきたいと思った。例えば「ありがとう」という言葉で感謝を伝えるだけでなく、会話をする。話を真剣に聞くだけでもいいと思った。感謝だけではなく、自分が悪いと思ったことは相手にしっかり伝えようと思った。

③自分はバレーボールを「つなぐ」ものだと思っていて、だからこそ一人ひとりの意識や意思が大切だと思った。つなぐものだからこそ、みんなで一つになって、喜び合い、悲しみたい。それをみんなに分かってもらえるように自分も頑張りたい。

④自分のする行動は自分ではわからない。見えないところにまで響く。ということを理解して行動しようと思う。また、相手を苦しめるということは、時に自分も苦しめてしまうということ頭にいれていきたいと思う。

⑤自分らしい生き方をするには、自分がしたい、やってみたいなどの好きなことに取り組むことだと思います。また、その取り組みで自分らしさや個性を出していくことで自分らしさがあわれ、生き方につながると思います。私は陸上が好きで一生懸命取り組んで努力して結果を出したいです。

⑥今まで一人で生きてきてないし、他の人などの助けで私は生きているので、もし私がそのような状態になったら、感謝の気持ちをもって自分の行動を考えたいです。人に対してもっと、人にやさしく気持ちを考えられる人間になろうと思いました。